

思考力・判断力・表現力をはぐくむ授業

「陶芸(工芸実践)」

大阪府立緑風冠高等学校 指導教諭 角田 慎一

【学習指導要領の関連】学校設定科目「工芸実践」に類似する「工芸 I」

工芸 I

A 表現

- (1) 身近な生活と工芸
- ア 自然や素材，身近な生活や自己の思いなどから心豊かな発想をすること。
 - ウ 制作方法を理解し，意図に応じて材料や用具を活用すること。
 - エ 手順や技法などを吟味し，創意工夫して制作すること。

題材について

3年生選択科目「工芸実践」(学校設定科目)では「陶芸」を題材とし、1年間かけて基礎から自由制作までを個人のペースに任せて行います。現代社会において忘れがちな「人間の感覚」を究極のローテク、アナログの世界で生徒が自ら土と触れ合い、集中し、予期せぬ割れや想像を超えた釉薬の発色を経験して作品を創り上げるにより、造形力のみならず「学ぶ自分」の獲得をめざします。

題 材 名 「陶芸」

題材の目標 粘土練りから途中作品の管理、焼成、作品展示、教室・備品の清掃・管理までを行うことにより、陶芸の基礎技術習得から造形力や感性を高め、総合的なモノ作りマネジメント力を育成する。

計 画 総時間数 40時間 (年間)

講座・生徒 第3学年 工芸実践 (学校設定科目) 1講座 15名

準 備 粘土、陶芸用具、設備一式 (電気窯1.5KW 電動ろくろ8台 ほか)

内 容

■粘土を練る

- ・荒練り、菊練りをマスターする。(1学期)
- ・マスターできた生徒から作品の構想、技法の選択・練習を行う。

■何を創るか構想し技法を選択する。

- ・ろくろ技法、たたら技法、くりぬき、手びねり、練り込み、等の技法を選択し練習する。
- ・技法を先に決定してから作品の構想を練る場合もあり。(特にろくろ希望者)

■技法の練習 試行錯誤

- ・個別に話し合いながら制作を進める。(2学期)
- ・この頃には自分が何をすべきかがわかってくる。制作の準備や途中作品の管理、片付けが一人でできるようになる。必要であれば放課後にも制作を行う。

ま と め

生徒それぞれが茶碗であったり、陶の照明器具であったり自分で決めたものを考えながら様々なモノをつくり
ます。自分で創るものを決め、技法を選び、試行錯誤を繰り返して制作を進めていきます。1年、2年という長
い期間で生徒の成長は、はっきりとわかります。時に「時間の無駄使いか？」と悩む時もありますが、「教えら
れる」より「学び取る」方が“定着”は遥かに優れています。美術の授業で、生徒が「ものの考え方」や「問題
解決の方法」を自分のものとし、これからの人生の役に立てばと考えています。

<菊練りの練習> できるようになった生徒は他の生徒を教えます。



<ろくろ成形> のめり込む生徒が多いです。



<たたら成形> 自由なかたちづくりが魅力です。



様々な技法でできる様々な形。生徒はお互いに高め合います。



工芸室（元化学講義室）



粘土板乾燥棚（自作）



電気釜

